



小坂ジュニアソフト 県大会連覇！全国へー

【大会結果】

	vs 相手チーム	得点
予 選	荒尾府本 S C (荒尾市)	5 - 1
//	河江小学校 (小川町)	3 - 2
準決勝	岡東子ども会 (牛深市)	4 - 0
決 勝	深海子ども会 (牛深市)	1 - 0

4月28・29日、天草市で開催された第32回全日本小学生男子ソフトボール大会・熊本県予選会で小坂ジュニアソフトボールクラブ（岩野勇監督・25人）が優勝し、全国への切符を手に入れました。

12チームが参加した今大会では、エースの本田壮太選手が肩や肘を痛めている中で、チームのファインプレーなどで苦しい局面でエースを助け、本田選手は最後まで投げ切りました。技術面やメンタル面でも、今までできなかったことが本番でできたことに岩野監督は「最大級の成長をした子どもたちに感動した。全国では日本一を目指す」と熱く話しました。



全国大会は、8月2日～6日、愛媛県松山市で開催されます。

7人目の地域おこし協力隊誕生！ 御船町を観光スポットに！

**なぜ御船町で
地域おこし協力隊に？**

福永幸山堂のお手伝いとして2月に開催されたひなまつりのイベントに参加しているときに、町観光協会の永本文宣会長に地域おこし協力隊の入隊の誘いがありました。御船町のことはまだ何も知らない状態でしたが、御船町にいううちに、ここに住んでみたい、御船のことをもっと学びたいという気持ちが強まり、今までの仕事で培ってきた接客スキルを活かしたいと思い、入隊を決意しました。

どういう町にしたいか

休日には家族連れの人たちなどに来てもらい、遊んで、食べて、楽しんで笑顔で帰ってもらえるような観光スポットにしたいです。遊ぶところ、食べるところ、寝るところは全部連鎖になっていて、今の御船町にとって大事なところだと思っています。「日帰りの町」じゃだめ、夜まで楽しみ、朝ごはんを食べて帰ってもらおう。そんな御船町を目指したいです。



1986年生 趣味は読書や映画鑑賞、水泳
齋藤康司さんー山口県出身

御船 原点 があーっぱ祭りの

御船があーっぱ祭り特集

があーっぱ祭りのはじまりー

昭和47年7月6日、御船町は過去に例のない甚大な水害に見舞われました。集中豪雨による御船川の氾濫で町はひとのみにされ、町全体に深刻なつめ跡を残しました。

しかし、この後すぐに町民一丸となった復興への取組みが始まり、「明るい町を取り戻そう」と立ち上がりました。

「むかしむかしのお話です。御船川の若宮淵に“せい太郎”といういたずら好きのガアッパが棲んでいました。せい太郎は人や馬などを淵に引き込んで溺れさせたり、大暴れして洪水をおこすなど、数々の悪事に、人々はほとほと困り果てていました……云々」

このような話が、御船には昔から伝わっています。この「ガアッパ伝説」にちなみ、名称を広く町民から募集して始まったのが「があーっぱ祭り」です。



1972年（昭和47年）夏祭りの愛称募集



町中をまわる船太郎（右）とお福（左）
ふねみ（船美）

御船の昔話

「があーっぱ」船太郎

昔々、辺田見村の若宮さんのお宮そばに、若宮淵という広い淵がありました。10数メートルもあるかという深みには、大きな岩が川底に重なり合い、昼でも暗く青くよどんでいました。この淵の底には、一匹の「があーっぱ」が住みついていた。その「があーっぱ」の名は、船太郎。夏場の暖かいころは川底にすみ、水が冷たくなると岸辺に上がり「ヤマウロ」となって、玉虫村の山中にある洞にもぐりこみ、のどかに暮らしていました。

ところがある年から御船川の度重なる氾濫で、若宮淵も土砂に埋もれて浅くなってしまいました。すみ家を失った船太郎は大変困っていました。

しかしそのころ、眼鏡橋の下流に新しい糸糸淵ができました。さっそくそこへ移りすむことにしました。

この淵は、深く、静かで、すみ心地も良く、船太郎は、気晴らしに商家の船着場へ行って、積み荷を食い散らかして悪さの限りを尽くしました。商家の主人や船頭たちは大変困り果て、小坂村の八頭大龍王さんに相談をしました。すると「船太郎が悪さをするのは遊び仲間に入れてやらないから」というお告げがあったそうです。お告げを聞いた商家の主人や町役人たちは話し合い、8月の「お地蔵さん祭り」のころに船太郎を祭り客として迎え、夏祭りを催すことにしました。

祭りに加わった船太郎は、頭ふりふりとひと晩中、御船の子どもたちと踊りました。そこから不思議なことに船太郎の悪さもなくなり、御船の商売もたいへん繁盛したそうです（一部抜粋）。

作 郷土史家
故 丹生 静男 氏



町内外から184点の応募があり、7月3日「御船があーっぱ祭り」に決定。

昭和47年8月23・24日

第1回御船があーっぱ祭り開催

1988年（平成元年）御船があーっぱ祭り振興会5月に発足。

1995年（平成7年）御船一番山車制作

1996年（平成8年）船太郎、お福と結婚※福岡宮田町から嫁入り

第24回の祭り当日の朝、結婚式をとりおこなう。

1997年（平成9年）御船二番山車登場。（第25回）

商工会の有志らがおよそ120日間をかけて制作。幅2.5m、長さ6m、高さ4m、重さ約1.5t。

1999年（平成11年）子っぱの愛称募集※船太郎と妻・お福の間に女の子がっばが誕生。子どもから中高年者までの57人が応募。振興会役員ら7人で審査会を開き、「ふねみ（船美）」に決定。

2000年（平成12年）船太郎と妻・お福の間に男の子がっばが誕生（竜）